

大宮橋・二宮橋・走井橋

日吉大社と外界との南の境界は大宮川である。この川に架かる大宮橋、二宮橋、走井橋の 3 つの橋が、神域への入口となる歴史的な橋である。

いずれも当初は木造であったが、1669 年に花崗岩製に改修された。花崗岩の橋は、木造の橋を忠実に再現している。1917 年に 3 橋がそろって重要文化財に指定された。

大宮橋

長さ 15.3 メートル、幅 6.7 メートル

日吉大社の三橋のうち、最も大きく、最も精巧な橋。西本宮（旧称：大宮神社）の参道に架かっている。日吉大社の祭礼の多くで使用される。

二宮橋

長さ 15.3 メートル、幅 5.7 メートル

東本宮（旧二宮神社）の表参道に架かる橋。現在は 4 月の山王祭の時のみ使用される。

走井橋

長さ 14.5 メートル、幅 4.6 メートル

他の 2 つの橋とは異なり、手すりも装飾もないシンプルな橋である。大宮橋と平行して架かっており、神事や行事の際、境内に入る前にお祓いをするために利用される。橋の北詰にある「走井泉」がその名の由来である。山王祭の始めには、橋の近くの川で清めの儀式が行われる。